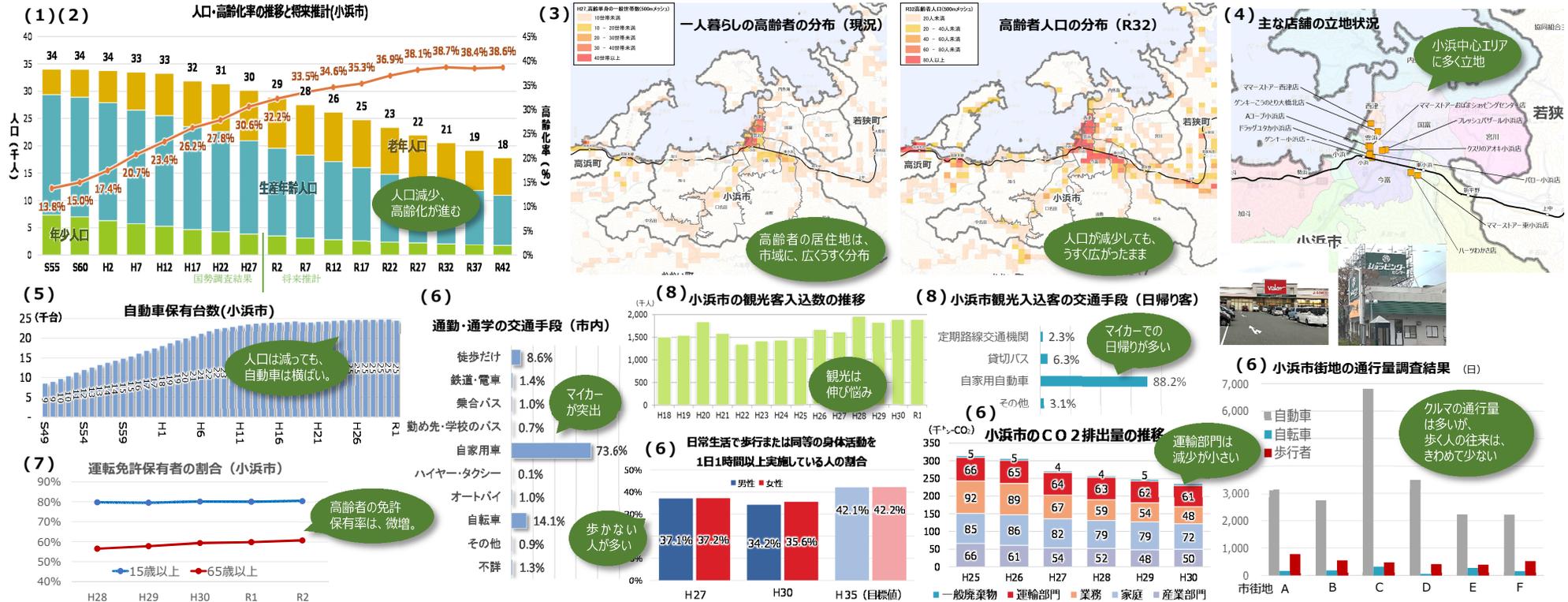


小浜市の地域及び公共交通の現状について

■小浜市の現状

地域の現状

- (1) 小浜市の人口はすでに減少に転じ、**今後も減少**する見通し。総人口・高齢者人口とも小浜の**中心エリアに集中**。ただし、**市域に広く薄く分布**。
- (2) **高齢化が進展**する見通し。**一人暮らしや高齢者のみの世帯**が増加し、社会的に免許返納が進められるなか、外出で**クルマを使わない人が増える可能性**がある。
⇒日々の**移動手段の確保**は重要なテーマ。**公共交通の役割が、ますます重要**になる。
- (3) 将来も、少ない**人口が広く薄く**市域に分布。高齢者人口の分布も同様。⇒**鉄道やバス等で、市域すべてをカバー**することが難しい状況。
- (4) 利用の多い**店舗や病院等**は、小浜の**中心エリアに立地**。市民は日常的な用事で小浜中心エリアに出かけ、時々用事で敦賀市や京都・滋賀方面に出かける。
⇒市民の**市中心エリアへの移動、市外への移動の確保**が必要。小浜の店舗、病院は、**若狭町・おおい町からの利用**も多い。⇒**来訪者へのフォロー**も必要。
- (5) 福井県のクルマ保有率は全国トップクラス。市民の交通手段は、**大半がクルマ**（運転、送迎・同乗含む）であり、**公共交通を利用する人が、きわめて少ない**状況。
- (6) **クルマ中心**の行動スタイルであるため、**公共交通の利用客数**だけでなく、**地球環境面、健康面、市街地の賑わい**等の面で悪影響が生じる**危惧**もある。
- (7) 現状では、**高齢者の運転免許保有率**は、ますます高くなっており、免許返納はあまり進んでいない。⇒**市民等の現状は、クルマ中心の行動スタイル**であり、**今後の危惧**もある。
- (8) **観光**は、資源が豊富にあるが、観光客数が伸び悩み。観光の交通手段も**クルマ中心**で、**回遊・周遊は少数派**。



■ 小浜市の現状

小浜市が目指す姿（上位・関連計画より）

- 本市のまちづくりの最上位計画：小浜市総合計画が目指す将来像「みんなで描く、悠久の歴史と風土が活きるまち～新たな時代の御食国 若狭おばま～」
⇒北陸新幹線全線開業による新高速交通時代の幕開けを控え、小浜のアイデンティティを見直し、人や地域資源を含めた「みんな」で未来の姿を描く、オール小浜体制のまちづくりを加速。新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会のしくみや生活様式が大きく変わる中、市民、団体、事業者が、それぞれの夢を実現できるまちづくりをめざす。

●第6次小浜市総合計画より

めざす将来像 みんなで描く、悠久の歴史と風土が活きるまち
～ 新たな時代の御食国 若狭おばま ～

- 新時代を迎えるまちに向けて
- 第1章 新たな時代を担う人を育むまちの実現
 - 第2章 みんなが安全・安心に暮らせるまちの実現
 - 第3章 悠久の歴史と風土を活かした観光のまちの実現
 - 第4章 活力ある産業をみんなで育てるまちの実現
 - 第5章 新たな時代に向けた住み心地の良いまちの実現

●北陸新幹線敦賀開業アクションプランより



⇒敦賀開業効果を最大限享受する取り組みを推進

●北陸新幹線全線開業を活かした小浜市新まちづくり構想より



⇒生活の質向上、移住・定住の促進、交流人口の拡大等を目指す。

●第5章 新たな時代に向けた住み心地の良いまちの実現

(関連事項の記載)

- 北陸新幹線全線開業
 - ・北陸新幹線の整備促進
 - ・新幹線駅周辺のまちづくり
- 公共交通・道路交通網
 - ・小浜駅・東小浜駅周辺の利便性の向上
 - ・地域公共交通体系の確立（JR 小浜線の効率性・利便性向上、市民の利用意識、あいあいバスの運行継続、新たな交通の導入など）

●小浜市立地適正化計画より



⇒拠点を充実し公共交通でつなぐ都市づくり

●その他、関連計画等

- 第2期小浜市総合戦略
- 小浜市都市計画マスタープラン
- 第3期小浜市地域福祉計画
(バリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進等)
- 小浜市国土強靱化地域計画
(災害時における公共交通ネットワークの確保等)
- 第2次小浜市健康増進計画
(車での移動を少なくし、自転車や徒歩での移動の推奨等)
- 小浜市環境基本計画
(コミュニティバスなどの公共交通機関の利用促進等)

⇒多様な分野で、公共交通が寄与できる事項がある。

■小浜市の現状

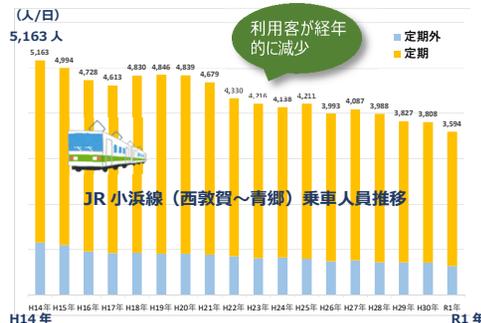
公共交通の現状・問題等 (1)

- (1) 主に**鉄道 (JR 小浜線)**、**バス (JR バス若江線、あいあいバス、流星号)**、**タクシー**等で構成。市内中心エリアへの移動、嶺南地域内の移動、広域移動のための**ネットワークが概成**。JR 小浜線は、嶺南地域の基軸。関西方面へは、JR 小浜線または JR バス。市内の移動は、あいあいバス・あいあいタクシー。
- (2) 主要駅は、市の中心エリアに立地する**小浜駅**。ほぼ**全てのバス路線が発着**し、市内各方面をつなぐ。
- (3) 鉄道、バスとも、**利用客数は減少**。運営面で**厳しい状況**。
- (4) 平日の**小浜駅**、**東小浜駅**の乗降客数は多いが、学生の通学が主であるため、休日には大きく減少。駅へのアクセスは、徒歩や自転車、送迎が多い。
- (5) **あいあいバス**は、**利用客数がきわめて少ない路線**、**利用が偏っている路線等**があり、非効率となっている可能性がある。
- (6) **JR バス若江線**は、近江今津駅まで運行しているが、短区間の日常生活や通学での利用も多い。
- (7) バス・タクシー運行事業者の視点から、**従前からの利用客減**に加え、**コロナ禍でさらに減**となり厳しい状況。全国的な**乗務員不足**も大きな問題（現在は貸切バスとの間でやりくり）。現在、市内のタクシーは、深夜営業を取りやめ。高速バス（大阪行き）は終了。
- (8) 公共交通のほか、小中学校の**スクールバス**、自動車学校・企業の**送迎バス**（関西電力は多数）等が運行。

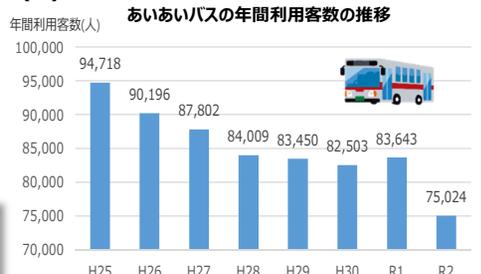
(1)(2) 小浜市の公共交通ネットワーク



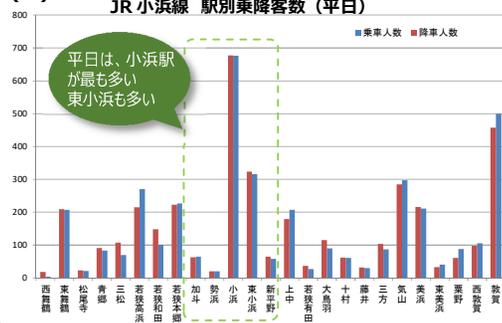
(3)



(3)



(4)



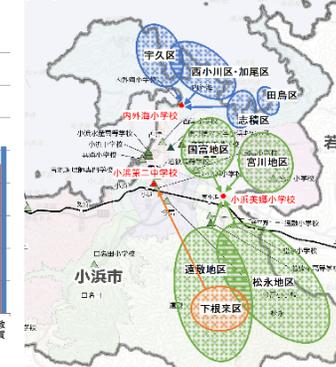
(4)



(4)



(8) スクールバスの運行状況



■ 小浜市の現状

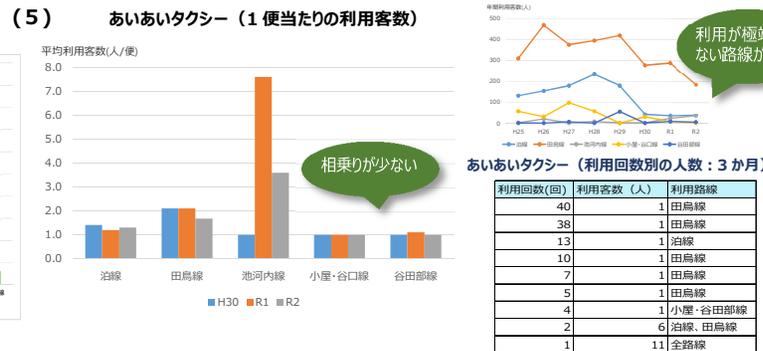
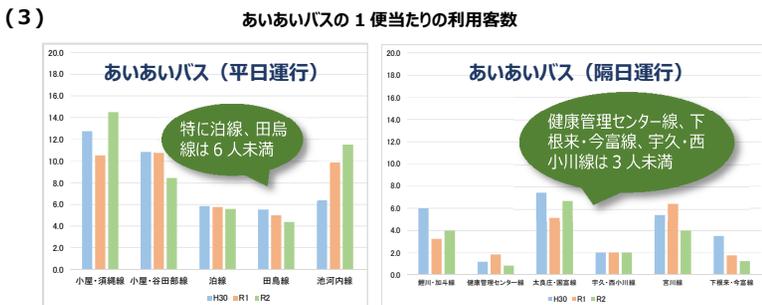
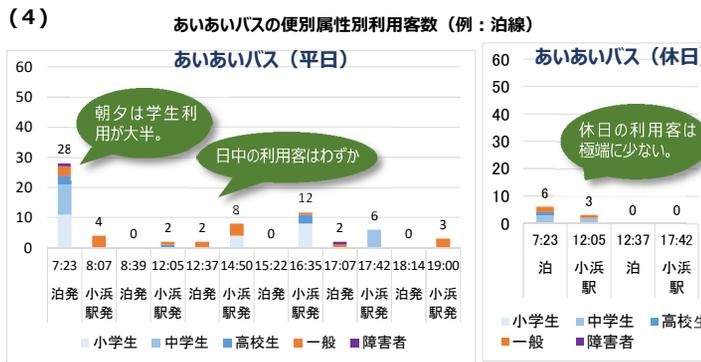
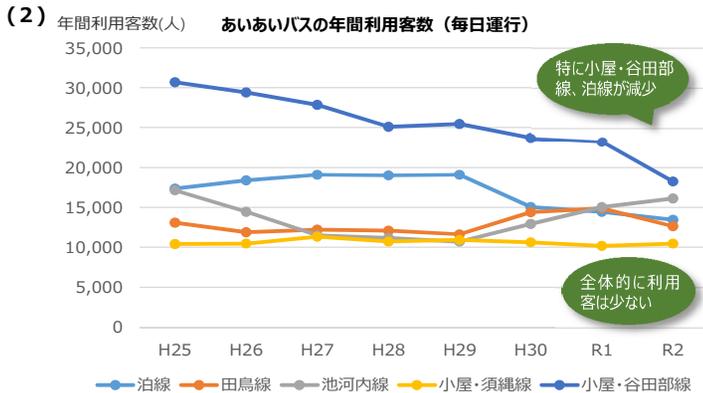
公共交通の現状・問題等 (2)

《あいあいバスについて》

- (1) 「あいあいバス」には、**毎日運行路線**、**隔日運行路線**があり、**土曜日**は少ない便数で運行。日曜日は、予約制の「あいあいタクシー」で運行。
- (2) あいあいバスの**利用客数は年々減少**（コロナ禍以前から）。
- (3) あいあいバスは、**利用客数がきわめて少ない路線**、**利用が偏っている路線等**があり、非効率となっている可能性がある。
- (4) あいあいバスの利用者は、**朝夕の時間帯は学生の利用が大半**であり、**日中の時間帯の利用者はきわめて少ない**状況。
- (5) あいあいタクシーは、年間利用客が極めて少ない状況。また、**相乗りが少なく、同じ人の利用多い**。

《わかりやすさ等について》

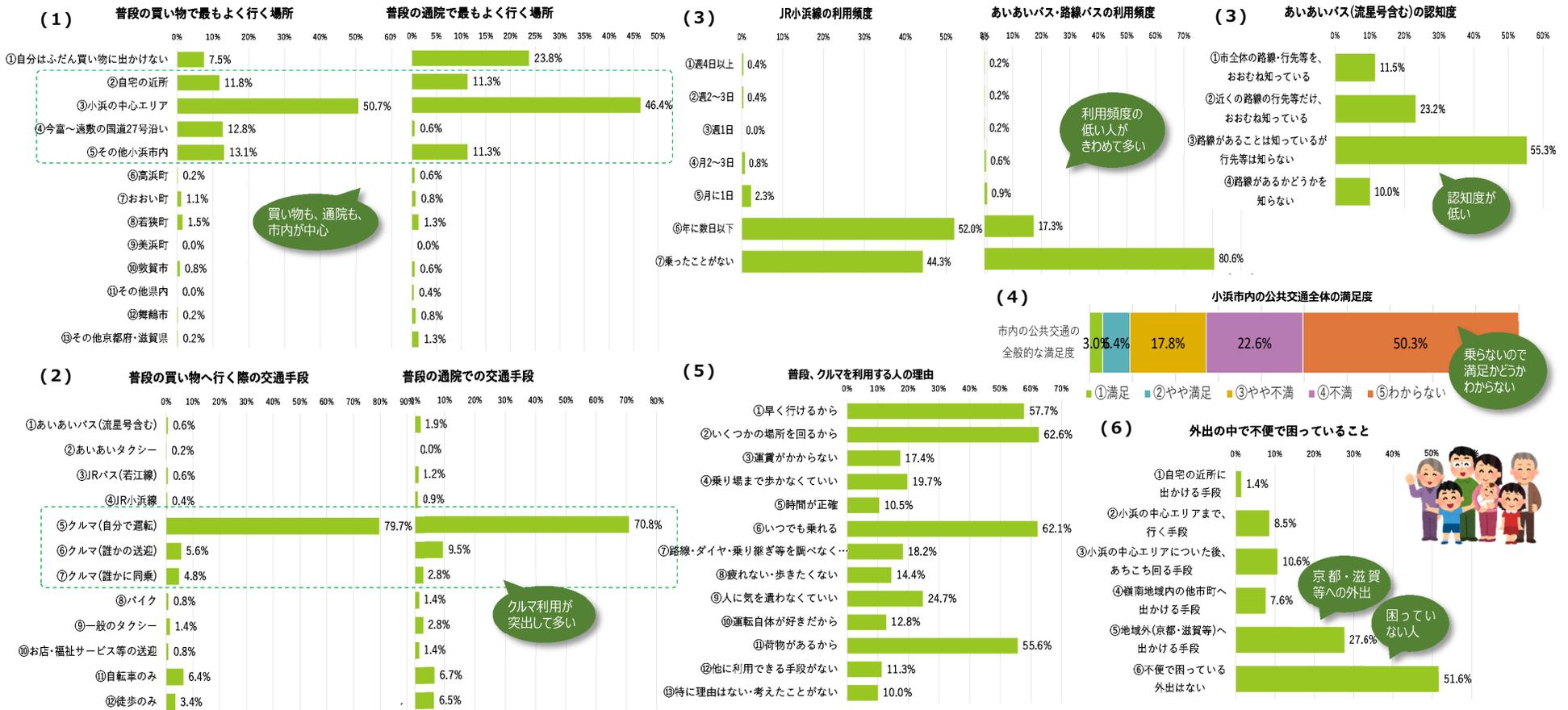
- (6) 小浜駅の待合所にバス案内等は見られない。**バス乗り場の案内**は、時刻表・路線図が目線より低く、また高齢者や来訪客など**不慣れな人に分かりづらい**面がある。
- (7) あいあいバスの時刻表は、路線図と時刻が一緒に記載されているが、情報が多く、**特にお年寄り等には難解**な可能性がある。



■ 市民の外出状況・意識等（市民へのアンケート結果等より）

市民の外出状況・意識等（1）

- (1) **市中心エリア**に、市民がよく利用する店舗、医療施設等が立地しており、**日常的な外出先は市内**が中心。特別な買い物・遊び等で、**敦賀市や滋賀・京都に、時々出かける**こともある状況。⇒**市民の外出にはいくつかのパターン**がある。
- (2) 外出手段は、**クルマ（運転、送迎・同乗）**がきわめて多く、**公共交通**を使う人の割合は**少ない**のが現状。外出時に**歩く人も少ない**ように見受けられる。
- (3) 小浜線・バスの**利用頻度**の多い人がきわめて少ない。**あいあいバス**は、行き先等の**認知度も低い**のが現状。⇒**日常の交通手段として定着していない状況**。
- (4) 市内の公共交通に**満足な人は少ない**（特に、小浜線・バスのダイヤ、運休・遅延、バスのルート等）一方、**乗らないので分からない**という人が特に多い。
- (5) クルマを利用する人は、“早く行ける”“いつでも乗れる”という時間に関する理由のほか、“**いくつかの場所を回る**”“**荷物がある**”というコース・徒歩に関する理由が多い。
- (6) 全体として、外出で**困っていない人が多い**。困ったことのある人の中では、**地域外（京都・滋賀）**への外出が比較的多い。

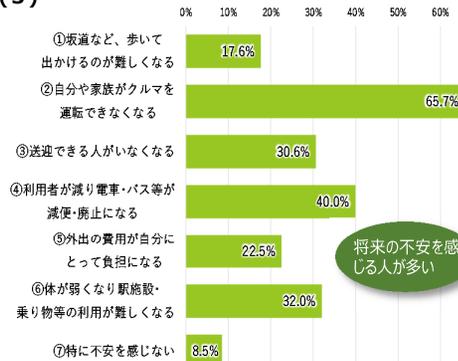


市民の外出状況・意識等（市民へのアンケート結果等より）

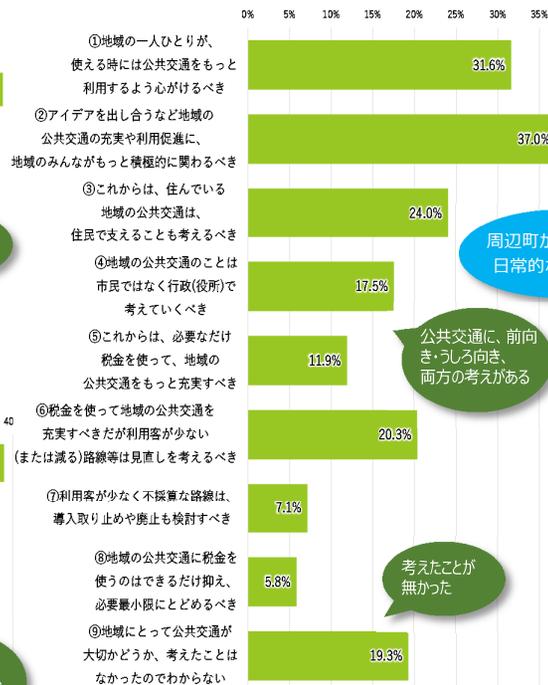
市民の外出状況・意識等（2）

- バスへの改善の希望は、“小浜中心エリアを回る”“人気店・病院等の建物近くに発着”という市街地の回遊に関する希望が特に多いほか、よく乗る人に便利な料金の仕組み、乗り継ぎや休日の便の調整、“乗り場での案内”“お年寄り向けマップ”などわかりやすさの向上が多い。
- ただし、改善されても利用するかどうか“わからない”“利用しない”という人も多い。
⇒利便性・わかりやすさ向上の可能性を模索する一方、利用促進・意識の変容も必要。
- 現在はクルマ中心だが、将来の交通手段に不安を感じる人が多い。
- 将来、公共交通中心のまちを望む人が多い。ただし、クルマ中心のまちを望む人も少なくない。
- 公共交通の取り組みに前向きな考えの人が多く一方、後向きの考えの人もいる。また、これまで考えたことがない人も少なくない。

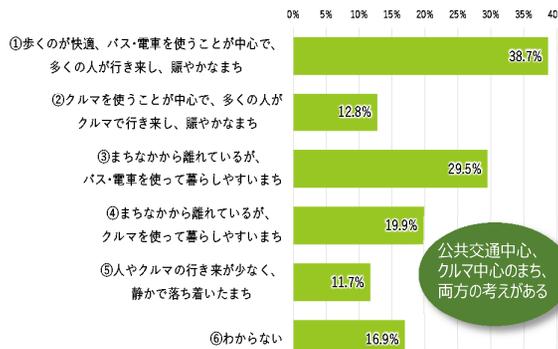
(3) 年齢を重ねた将来の交通手段不安に感じること



(5) 「小浜市内」の「地域の公共交通」に対するあなたの考え



(4) あなたの住む地区が、どのような「まち」になってほしいと思いますか



その他調査等より

《地区住民との意見交換会（小浜地区・内外海地区）より》

- 待ち時間が長い、鉄道・バスの乗り継ぎにくい等で移動に時間がかかるため、現在は、高齢者でもクルマ中心。運転できない将来が不安。
- 荷物が多く、あいあいバスを使いにくい（特に帰り）。
- 「市中心部等を巡回」するバスが欲しい。
- 通学で、あいあいバスの乗り継ぎが間に合わない。
- あいあいバスは利用客が少なく、申し訳なく感じる。
- バス停まで行くのが難しい人がある。移動困難に特化した支援も必要。
- 現在は、児童・高齢者の送迎を、近所で助け合うこともある。
- 昼間は、高齢者に配慮した運行にしたほうがよい。
- バスでなく、地区内まで入る乗り物や、デマンドタクシー等があるとよい。
- 歩く習慣がないので、公共交通を使わない。「意識向上」の取り組みや、「無料乗車体験会」「お試し券」等があるとよい。



《参考：過年度の嶺南地域のアンケート等より》

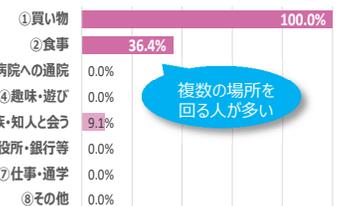
(おおい町民の買い物先)



(若狭町民の通院先)



(小浜病院へ通院した人の通院後の行動)



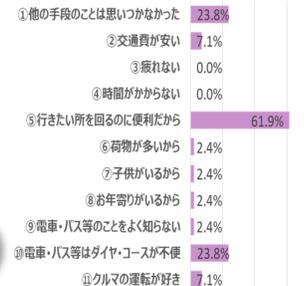
(小浜市の観光客の居住地)



(クルマで来た観光客の小浜の滞在時間)



(クルマで小浜を観光する人の理由)



■ 今後に向けた課題

基礎調査を通じて見出された課題・着眼点等

- **小浜市がめざす姿やまちづくりを、将来にわたり支えていく公共交通が必要。**
 - ・今後も進むことが見込まれる人口減少・高齢化を念頭に置き、地域に見合った公共交通を考えていくことが必要。また、拠点間や地域の連携を支えていくことが必要。
 - ・すでに、市内各地区～中心拠点の移動、嶺南地域内の移動、広域移動を構成する公共交通ネットワークが概成しており、これらを将来まで確保・維持することが重要。
- **公共交通を使った日々の外出を、より便利にする、または補完する移動手段の検討が必要。**
 - ・現状では、小浜中心エリアを回遊するのに便利なバス等がなく、ニーズも高い。また、居住地区内でバス停まで行くことが困難な箇所（公共交通不便箇所）が部分的に残存しており、ネットワーク補完の方策を検討することが必要。
- **拠点の機能確保や案内の充実が必要。**
 - ・ネットワーク構成で、中心拠点となる小浜駅は、アクセス機能や待合室等が整備されており、これらを確保・維持することが重要。ただし、駅前バスの案内等については、わかりやすさの向上を望む声も多く、改善が必要（東小浜駅や他の駅のバス停も同様）。
- **地域内移動、広域移動について、複数の公共交通にまたがる調整・検討の余地。**
 - ・クルマ利用が大半で、支障のない市民が多い現状であるが、嶺南地域内の移動、地域外（京都・滋賀方面等）への移動について、改善を望む声もあり、また、隣接町から本市への日常的な移動があることから、複数の公共交通にまたがる取り組みの必要性・可能性について、検討の余地がある。（例えば、乗り継ぎの利便性、遅延・運休時の対応等）
- **全体のわかりやすさ・使いやすさの向上が必要。それだけでなく、市民等の意識の醸成が必要。**
 - ・市内の公共交通が全体的にわかりにくいとの声があり、利用しようとする人が使いにくさを感じる事項もあるため、お客さま目線での改善や工夫が必要。
 - ・一方、市民の利用頻度・認知度がきわめて低く、公共交通が使えても、クルマを利用する人が大半であるため、過度なクルマ利用・行動スタイルの見直し、公共交通に対する意識の醸成が必要。
- **回遊・周遊を通して、まちの賑わい等に貢献することが必要。**
 - ・公共交通での来訪・回遊・周遊や、“公共交通利用”と“歩く”を中心とした外出を促すことで、まちなかの活性化や、観光のまちづくりに寄与していくことが必要。

■ 小浜市の公共交通が目指す姿と今後の方向性（案）

● 基本理念（めざす姿）

まちを育み、暮らしを支える公共交通を目指します。

● 今後に向けた取り組みの方向性

方向性1 市民とともに支え育む公共交通

- 小浜市の目指すまちづくりを支え、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの提供
- モビリティ・マネジメントの取り組み（市民の意識の醸成・行動スタイルの変容）

例）概成した現在のネットワークの構成を維持、あいあいバスの効率的な運行、新たな技術の活用、公共交通利用に対する支援、市民の公共交通に対する理解・関心を高め、過度なクルマ利用の見直しを促す広報活動・企画 など

方向性2 日々のおでかけを支える公共交通

- 高齢化社会を迎えるなか、買い物や通院等での外出機会の促進を支える取り組み
- クルマではなく、公共交通等での外出を便利にする交通サービス

例）小浜中心エリアの回遊性向上、乗り継ぎの利便性向上、居住地区内を細かくカバーする種々の方策の検討、新たな技術の活用、免許返納者への支援 など

方向性3 わかりやすく・使いやすい公共交通

- 高齢者や不慣れな人にもわかりやすくし、公共交通への抵抗感を低減する取り組み
- 日常的に公共交通を使いこなすことを促す取り組み

例）市内の公共交通全体のわかりやすさの向上、主要駅前の案内の充実、よく使う人にメリットがある仕組み、気軽に1日に何度も乗れる仕組みの検討 など

方向性4 まちの賑わいを支える公共交通

- 地域内外の人の回遊・周遊を促す公共交通の取り組み
- 地域外からの来訪者にもやさしい・使いやすい公共交通の利用環境づくり

例）本市への来訪、周遊を促す公共交通サービス、小浜中心エリアの回遊性向上、公共交通の案内の充実、種々の企画 など